英文法 L01 第 41 講 make・have・let の使役

学習目標

make・have・let を使った基本的な使役構文について、共通する語順と意味の違いを理解し、文脈に合った動詞と動詞の形を選ぶことができる。

1. 使役構文の基本

使役構文とは、人やものに何らかの動作をさせたり、動作をすることを認めたりする表現である。英語では、make・have・let を使って、誰が誰に何をさせるのかを表すことができる。

この 3 つには共通する語順がある。

定義

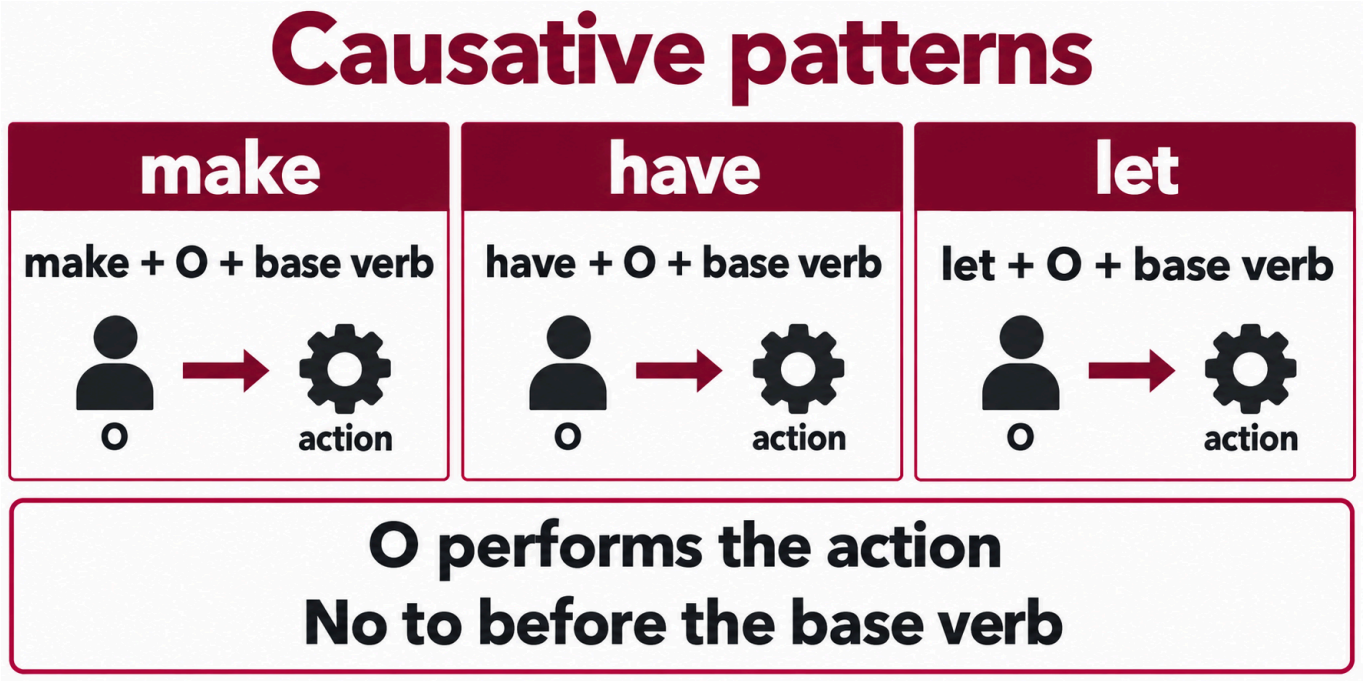
目的語（O）：動詞の対象などを表す語句。この使役構文では、後ろに続く動詞の動作を行う人やものを示す。

動詞の原形：動詞の基本となる形。たとえば、run（走る）、carry（運ぶ）、use（使う）などを指す。

基本の語順は、次のとおりである。

make / have / let + O + 動詞の原形

目的語の後ろには、その目的語が行う動作を表す動詞を置く。ここで扱う make / have / let + O + 動詞の原形の形では、動詞の原形の前に to は付けない。



たとえば、次の英文を見てみよう。

The coach made us run five laps.

（コーチは私たちに 5 周走らせた。）

この文では、us が run（走る）という動作を行う。コーチが走るのではなく、目的語である us が後続動作の主体になっている点が重要である。

ポイント

make・have・let の後ろに目的語を置き、その目的語が行う動作を動詞の原形で続ける。共通の語順を押さえたうえで、文脈から 3 つの動詞の意味を判断しよう。

2. make・have・let の意味の違い

3 つの動詞は同じ語順で使えるが、表す意味は異なる。

動詞	基本的な意味	判断の手がかり
make	～に…させる	動作をさせる、ある結果を生じさせる
have	～に…してもらう、～に…させる	動作を依頼する、手配する、担当してもらう
let	～が…することを許す	動作をする許可を与える

解説

make：～に…させる

make は、人やものに何らかの動作をさせることや、ある結果を生じさせることを表す。相手に強制する場面でも使われるが、make の意味を「強制する」だけに限定してはいけない。

The teacher made us clean the room.

（先生は私たちに部屋を掃除させた。）

この文では、先生が私たちに掃除をさせており、clean の動作を行うのは目的語の us である。

have：～に…してもらう

have は、人に何かをしてもらうことや、動作を依頼・手配することを表す。必ずしも丁寧なお願いだけを意味するわけではなく、誰かに作業を担当してもらう場面などでも使われる。

I had my younger brother carry the box.

（私は弟にその箱を運んでもらった。）

この文では、my younger brother が carry（運ぶ）という動作を行う。話し手が弟に運ぶ作業をしてもらったことを表している。

let：～が…することを許す

let は、人が何かをすることを許す、または認めることを表す。許可を与えたことを示す表現であり、その動作が実際に完了したとまで必ず意味するわけではない。

My parents let me use their car.

（両親は私に車を使わせてくれた。）

この文では、me が use（使う）という動作を行う。両親が車を使うことを認めたという意味である。

ポイント

make は「させる」、have は「してもらう・するように手配する」、let は「することを許す」という基本の違いを押さえよう。ただし、単語の印象だけで判断せず、文全体の状況と目的語の役割を確認することが大切である。

3. 3 つの動詞を場面で比較する



You must clean it.（あなたはそれを掃除しなければならない。）

Please clean it.（それを掃除してください。）

Can I clean it?（それを掃除してもいいですか。）

Yes.（はい、いいですよ。）

3 つの動詞の違いは、誰かに動作をさせる場面、動作を依頼・手配する場面、動作を許可する場面を比べると理解しやすい。

図中の「must」「Please」「Yes」は、それぞれの場面をイメージするための代表例である。make・have・let がこれらの語と常に一対一で対応するわけではなく、実際の意味は文脈によって判断する。

注意

3 つの動詞に共通するのは、**目的語の後ろに動詞の原形を置くこと**である。一方、意味の違いは、動作をさせること、動作をしてもらうこと、動作を許可することのどれを表しているかにある。語順と意味を分けて考えよう。

©ミライコーチング

4. 例題

1

次の英文の空所に入る最も適切なものを A〜D から 1 つ選べ。

The coach made us ____ five laps.

A. run

B. to run

C. running

D. ran

解答・解説

正解：A. run

make + 目的語 + 動詞の原形という語順に注目する。目的語は us であり、その後ろには us が行う動作を表す動詞の原形を置く。run は原形なので A が正解となる。

完成英文： The coach made us run five laps.

和訳： コーチは私たちに 5 周走らせた。

各選択肢の解説

A. run

正解。run は動詞の原形であり、make + us + run という正しい語順になっている。

B. to run

誤り。The coach made us to run five laps. という形になるが、今回扱う make の能動使役構文では、目的語の後ろに置く動詞に to は付けない。

C. running

誤り。The coach made us running five laps. という形になる。ここでは動詞の原形が必要であり、running は適切ではない。

D. ran

誤り。The coach made us ran five laps. という形になる。ran は過去形であり、目的語の後ろに置く動詞の原形には当たらない。

2

先生は生徒たちに早く帰る許可を与えた。先生は生徒たちに帰るよう命じたのでも、帰るように手配したのでもない。この状況を最も適切に表す英文を A〜D から 1 つ選べ。

A. The teacher made the students leave early.

B. The teacher had the students leave early.

C. The teacher let the students leave early.

D. The teacher let the students to leave early.

©ミライコーチング

解答・解説

正解：C

判断の決め手は、先生が生徒たちに早く帰ることを許可したという条件である。let は「人が何かをすることを許す」という意味を表すため、C が正解となる。なお、許可を与えたことと、生徒たちが実際に早く帰ったことは区別して考える。

正しい英文： The teacher let the students leave early.

和訳： 先生は生徒たちが早く帰ることを許した。

各選択肢の解説

A. The teacher made the students leave early.

（先生は生徒たちを早く帰らせた。）

英文の形は正しい。しかし、make は人に動作をさせることや、ある結果を生じさせることを表す。この選択肢は、許可を与えたという条件を適切に表していない。

B. The teacher had the students leave early.

（先生は生徒たちに早く帰るように手配した。）

英文の形は正しい。have は人に動作をしてもらうことや、動作を依頼・手配することを表す。今回は帰るように手配したのではないため、条件に合わない。

C. The teacher let the students leave early.

（先生は生徒たちが早く帰ることを許した。）

正解。let + 目的語 + 動詞の原形という語順になっており、let が許可を表すという意味も状況に合っている。

D. The teacher let the students to leave early.

誤り。let の後ろに目的語を置いた場合、その後ろには動詞の原形を置く。to leave ではなく leave とする必要がある。

5. 演習問題

1

次の英文の空所に入る最も適切なものを A〜D から 1 つ選べ。

The coach made the players ____ quietly.

A. sit

B. to sit

C. sat

D. sitting

2

次の英文を、have + 目的語 + 動詞の原形の使役構文として完成させるとき、空所に入る最も適切なものを A〜D から 1 つ選べ。

I had my sister ____ the door.

A. closes

B. close

C. closed

D. closing

3

次の英文の空所に入る最も適切なものを A〜D から 1 つ選べ。

Our teacher let us ____ our notes during the lesson.

A. used

B. use

C. to use

D. using

4

次の A〜D の英文のうち、文法的に正しいものを 1 つ選べ。

A. My father let me to borrow his bike.

B. My father made me borrowed his bike.

C. My father had me carries the bags.

D. My father let me borrow his bike.

5

次の英文を、have + 目的語 + 動詞の原形の使役構文として完成させるとき、空所に入る最も適切なものを A〜D から 1 つ選べ。

The chef had the assistant ____ the vegetables.

A. chops

B. chop

C. chopped

D. chopping

©ミライコーチング

6

次の英文の空所に入る最も適切なものを A〜D から 1 つ選べ。

The funny story made the children ____.

A. laughed

B. to laugh

C. laugh

D. laughing

7

次の英文の意味として最も適切な説明を A〜D から 1 つ選べ。

The manager had Mina check the list.

A. ミナが一覧を確認することを、管理者が許可した。

B. 管理者がミナに一覧の確認を担当させるよう手配した。

C. 管理者がミナの意思に反して、無理に一覧を確認させた。

D. ミナが管理者に一覧を確認してもらうよう手配した。

8

冗談が原因で子どもが笑った。誰かが笑うように手配したのでも、笑うことを許可したのでもない。この状況を表す英文を A〜D から 1 つ選べ。

A. The teacher let the child laugh.

B. The teacher had the child laugh.

C. The teacher made the child to laugh.

D. The joke made the child laugh.

©ミライコーチング

6. 演習問題の解答・解説

1

正解：A. sit

make + 目的語 + 動詞の原形の語順に注目する。目的語は the players であり、その後ろには動詞の原形 sit を置く。

完成英文： The coach made the players sit quietly.

和訳： コーチは選手たちを静かに座らせた。

各選択肢の解説

A. sit

正解。sit は動詞の原形であり、make + the players + sit という正しい形になっている。

B. to sit

誤り。今回の make を使った使役構文では、目的語の後ろに置く動詞に to は付けない。

C. sat

誤り。sat は sit の過去形であり、この位置に必要な動詞の原形ではない。

D. sitting

誤り。sitting は動詞の原形ではないため、今回指定された make + 目的語 + 動詞の原形の形に当てはまらない。

2

正解：B. close

設問では、have + 目的語 + 動詞の原形という形が指定されている。目的語の my sister の後ろには、動詞の原形 close を置く。

完成英文： I had my sister close the door.

和訳： 私は姉（妹）にドアを閉めてもらった。

各選択肢の解説

A. closes

誤り。closes は三人称単数現在形であり、指定された動詞の原形ではない。

B. close

正解。close は動詞の原形であり、have + my sister + close という語順になっている。

C. closed

誤り。closed は過去形・過去分詞形であり、今回指定された構文に必要な動詞の原形ではない。

D. closing

誤り。closing は動詞の原形ではないため、指定された have + 目的語 + 動詞の原形の形には当てはまらない。なお、have + 目的語 + -ing という形が別の構文として使われる場合まで否定するものではない。

3

正解：B. use

let + 目的語 + 動詞の原形の語順に注目する。目的語は us であり、その後ろには動詞の原形 use を置く。

完成英文： Our teacher let us use our notes during the lesson.

和訳： 先生は授業中に私たちがノートを使うことを許可した。

各選択肢の解説

A. used

誤り。used は過去形・過去分詞形であり、let の目的語の後ろに置く動詞の原形ではない。

B. use

正解。use は動詞の原形であり、let + us + use という正しい形になっている。

C. to use

誤り。今回の let を使った使役構文では、目的語の後ろに置く動詞に to は付けない。

D. using

誤り。using は動詞の原形ではないため、今回指定された let + 目的語 + 動詞の原形の形に当てはまらない。

4

正解：D

let・make・have を使った使役構文では、目的語の後ろに動詞の原形を置く。D だけがこの形になっている。

正しい英文： My father let me borrow his bike.

和訳： 父は私に自転車を借りることを許してくれた。

各選択肢の解説

A. My father let me to borrow his bike.

誤り。let + me の後ろには動詞の原形 borrow を置くため、to borrow にはしない。

B. My father made me borrowed his bike.

誤り。make + me の後ろには動詞の原形を置く。borrowed ではなく borrow が必要である。

C. My father had me carries the bags.

誤り。have + me の後ろには動詞の原形を置く。carries は三人称単数現在形なので、この位置では不適切である。正しくは carry となる。

D. My father let me borrow his bike.

正解。let + me + borrow という語順になっており、目的語 me の後ろに動詞の原形 borrow が置かれている。

©ミライコーチング

5

正解：B. chop

設問では、have + 目的語 + 動詞の原形という使役構文が指定されている。目的語は the assistant であり、その後ろには動詞の原形 chop を置く。

完成英文： The chef had the assistant chop the vegetables.

和訳： シェフは助手に野菜を刻んでもらった。

各選択肢の解説

A. chops

誤り。chops は三人称単数現在形であり、指定された構文で目的語の後ろに置く動詞の原形ではない。

B. chop

正解。chop は動詞の原形であり、had + the assistant + chop という正しい形になっている。

C. chopped

誤り。chopped は過去形・過去分詞形であり、指定された構文に必要な動詞の原形ではない。

D. chopping

誤り。chopping は動詞の原形ではないため、指定された have + 目的語 + 動詞の原形の形には当てはまらない。なお、have + 目的語 + -ing が別の構文として使われる場合まで否定するものではない。

6

正解：C. laugh

make + 目的語 + 動詞の原形という語順に注目する。目的語は the children であり、その後ろには動詞の原形 laugh を置く。

完成英文： The funny story made the children laugh.

和訳： そのおもしろい話は子どもたちを笑わせた。

各選択肢の解説

A. laughed

誤り。laughed は過去形・過去分詞形であり、make の目的語の後ろに置く動詞の原形ではない。

B. to laugh

誤り。今回の make を使った使役構文では、目的語の後ろに置く動詞に to は付けない。

C. laugh

正解。laugh は動詞の原形であり、make + the children + laugh という正しい形になっている。

D. laughing

誤り。laughing は動詞の原形ではないため、指定された make + 目的語 + 動詞の原形の形に当てはまらない。

7

正解：B

判断の決め手は、英文の主語が The manager であり、have + Mina + check という語順になっている点である。この文は、管理者がミナに一覧の確認を担当させるよう手配したことを表している。

対象英文： The manager had Mina check the list.

和訳： 管理者はミナに一覧を確認させた。

各選択肢の解説

A. ミナが一覧を確認することを、管理者が許可した。

誤り。これは let が表す「〜することを許す」という意味に当たる。対象英文では、have を使ってミナに確認を担当させるよう手配したことを表している。

B. 管理者がミナに一覧の確認を担当させるよう手配した。

正解。have + 目的語 + 動詞の原形の形になっており、管理者がミナに確認作業を担当させるよう手配したという意味に合っている。

C. 管理者がミナの意思に反して、無理に一覧を確認させた。

誤り。対象英文だけでは、ミナの意思に反して強制したとまでは判断できない。have はこのような強制の場面で絶対に使えないわけではないが、この英文には強制を示す条件がない。

D. ミナが管理者に一覧を確認してもらうよう手配した。

誤り。動作を手配する側と、確認する側が逆になっている。対象英文では管理者がミナに確認させるのであり、ミナが管理者に確認を依頼するのではない。

8

正解：D. The joke made the child laugh.

判断の決め手は、冗談が原因となって子どもが笑ったという状況である。make は、人に動作をさせることだけでなく、ある結果を生じさせることも表す。この文では、冗談が原因となり、子どもが笑うという結果が生じている。

完成英文： The joke made the child laugh.

和訳： その冗談は子どもを笑わせた。

各選択肢の解説

A. The teacher let the child laugh.

（先生は子どもが笑うことを許した。）

誤り。let は、子どもが笑うことを先生が許可したという意味を表す。冗談が原因で笑ったという条件とは異なる。

B. The teacher had the child laugh.

（先生は子どもに笑ってもらった。）

誤り。have は、人に動作をしてもらうことや、動作を依頼・手配することを表す。この文では先生が子どもに笑う動作をさせる状況になっており、冗談が原因で笑ったという条件には合わない。

C. The teacher made the child to laugh.

誤り。make + 目的語 + 動詞の原形の形では、目的語の後ろに to は付けない。文法的に正しくするなら、The teacher made the child laugh. となる。ただし、この文も先生が子どもを笑わせたという意味であり、冗談が原因という条件とは異なる。

D. The joke made the child laugh.

正解。make + the child + laugh という正しい語順になっている。また、主語の The joke が原因、目的語の the child が笑う動作の主体となっており、条件に合っている。